

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



わらべうたの動画配信スタート!

「すくすく広場」や「おはなしリボンの会」でおなじみ、甲斐先生の「わらべうた」を、動画で見ることができるようになりました。附属幼稚園のホームページから、ユーチューブにリンクできるように設定しています。もちろんスマホでもご覧いただけます。家庭でも、どうぞ子どもたちと一緒に「わらべうた」で親子の触れ合いを楽しんでください。初回は、「あめがふる」と「かたどん」です。これから、少しずつプログラムを増やしていきます。乞う、ご期待!



一人一人のスピードで育つ子ども

年中さんの保育は、年長さんや年少さんと大きく違う点があります。それは、附属幼稚園での生活が2年目の子と、1年目の子が半数ずついるという点です。4月、5月は、このことがとても大きく影響します。初めて集団生活に入る子や、他園からの転入してくる子の気持ちは如何ばかりでしょう……。大人だって「5月病」などと言って辛い時期があるのですから……。まずは、登園してくるだけで「ハナマル」なのです。

担任の先生方は、この困難な学級経営に、実に丁寧に取り組んでいます。「保育案」という「一日の保育の綿密な計画」には、ちゃんと一年目の子と二年目の子を分けて、ねらいや手立てを別々に考え、様々な準備と援助をしています。さらには、お互いが教え合い助け合う場面を意図的に設定して、子どもの経験値の差を生かし、より良い関係性を築けるような工夫もしています。「経験が無いのだから、それは教えてあげてくださいね」「まだゆっくりペースでいいですよ」「初めに比べたら確実に伸びていますよ」つい焦ってしまいがちなお家の方には、そんな声掛けもしているようです。

幼稚園の子どもたちは、月齢による育ちの差が顕著です。年中さんに限らず、結局は、子ども一人ひとりが皆違うのだから、経験値も月齢も違う他の子と比べても仕方ないということでしょう。

以前お話しした「子どもは預かりもの」の本田選手のように、心理的に子どもから少し離れて見るくらいの気持ちの方が、焦らずに見守り、子育てを楽しむ心の余裕が生まれるのかも知れませんね。



附幼の縁の下の力持ち!田崎さん!いつもありがとうございます!

「ハチの巣があります!」「畑の肥料をお願いします!」「毛虫が発生しています!」「このボードを壁に取り付けてください!」……ありとあらゆる職員や子どもたちの要望に、速攻応えて下さる用務員の田崎実さん。田崎さんがもしいなかったら……。附属幼稚園の「危機管理」や「保育」の質



は保てなくなるでしょう。自分たちを陰で支えてくれる人の存在に気づき、感謝することの大切さを、子どもたちにも伝えていきたいものですね!